



# 青南だより

令和8年6月号  
港区立青南幼稚園  
園長 石川 典子

## 気候変動の影響は園庭にも！？

気候変動によって、平均気温の上昇、異常気象（猛暑・豪雨・台風の強化）、海面上昇（氷の融解）、生態系の変化（動植物絶滅のリスク）、食料や水の不足など、様々なことが地球規模で問題となっています。今年4月から夏日となり、5月には真夏日となりました。2024年には、夏の期間が1年の3分の1を超えて長期化していることが明確になり、四季から二季への移行が観測されたとされています。

園庭の自然も温暖化の影響を受けています。カエルの産卵が2月末、チュウリップや桜の開花が3月下旬、つつじの開花は4月中旬と、1か月近く早まっています。生き物との出会いや、開花、紅葉、季節の野菜や果物の収穫、その時期ならではの自然現象など、幼児にとって身近な自然環境が様々に変化をしていると感じます。

## 自然が好きな子どもたち

子どもたちは園庭で小さな生き物と出会うことを楽しみ、ヤゴや小さな黒い幼虫を見つけ学級で大切に育てていました。やがて、ヤゴは脱皮しトンボに、黒い幼虫は大きく鮮やかな緑色になり、蛹へと成長しました。幼児にとって、同じ生き物が大きく姿を変えることは大きな発見です。驚いたり、不思議に思ったり、様々に思いを巡らせたりしていました。また、前年度から育てていたソラマメやミニキャロット、園庭のイチゴを子どもたちが収穫し、食しました。収穫の喜びやおいしさを味わう体験となりました。現在、いちご組は枝豆とミニトマト、すみれ組はピーマンとミニトマト、かえで組はミニスイカとオクラを育てています。野菜を育てることを楽しみながら、野菜の成長や変化に気付き、食すことへの期待感が高まっていくことと思います。

子どもたちは、身近な自然に親しみ、その美しさや不思議さを感じる体験を通して、自然の存在を愛おしく思うようになります。園内の植物や生き物だけにとどまらず、地域の緑地などの自然の変化にも気付き、感じ、考える力を育むことも、未来を担う子どもたちにとって大切です。今後も益々、気候変動が続き、季節や自然環境が変化していくことが心配されますが、幼児期に自然への眼差し、自然環境に意識を向ける教育が、自然を大切に思う心につながるよう、今年度も、幼児が自然と関わる体験を充実させていきます。

令和8年度 港区立青南幼稚園経営計画 - 主体性を発揮して みんな笑顔の幼稚園 -

### (4)教材や行事を工夫し、心動く体験へとつなげ、豊かな学びを保障します。

- ⑤身近な自然を生かした環境を通して行う教育を推進し、発達段階や季節に合わせて、生き物との触れ合い、栽培や植物の収穫、園庭の自然物の活用などの自然体験を継続的に取り組み、自然を愛する気持ちを育み、命あるものを愛おしむ気持ちを培います。
- ⑥季節の自然や生き物との出会いを、幼児の豊かな体験や学びにつなげるため、野菜や遊びに使える草花の栽培やビオトープの整備などを、意図的・計画的に行います。

(園経営案 4経営の重点 今年度の主な取り組みより)